

7・2 生産性管理のしくみの整備

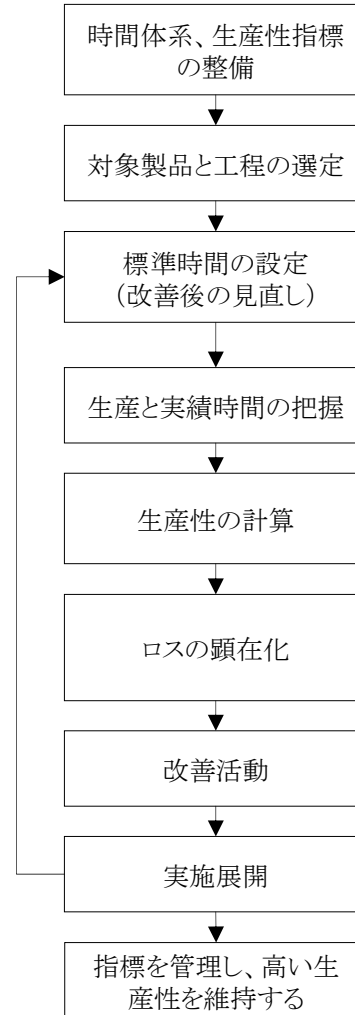
生産性管理は、就業時間内で標準時間以外の、ロス時間最小で継続的に生産をすることにあります。当然低い生産性の場合、そのロスに対して適切な改善を行うこととなります。そのために毎月の生産性、工程毎の生産性の比較ができるように適切な管理指標に基づいて定量的な把握が求められます。ロスが多い場合は、そのロスを削減するように生産性向上活動を実施します。

生産性管理のしくみは、定期的に時間体系に沿った発生時間、ロス時間の把握とその継続的な指標表示を可能にし、関係する従業員への開示とそれに基づいた改善活動への励みにつながる仕組みとして整備されます。実績の生産性を職場に貼る事で、頑張った結果が数値で見えるようにします。

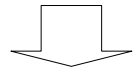
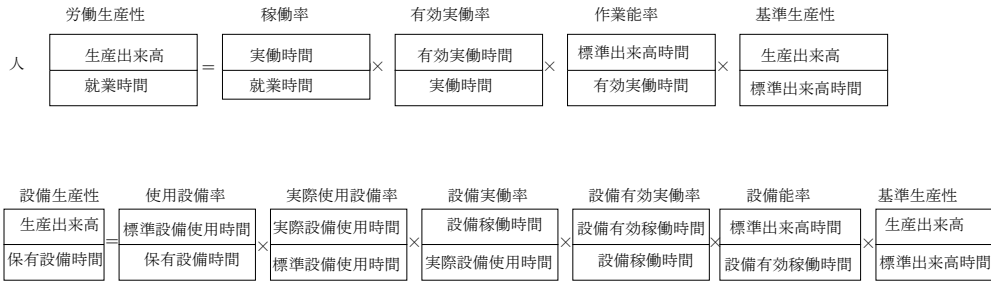
生産性管理がきちんとしていくと、それを活用した詳細の実績原価把握のしくみに移行できます。現場の製品、工程毎の実際に掛かった時間をもとに、正確な製造原価を算出できます。

生産性の管理対象は、人時間と設備時間がありますが、工程によって中心となる人作業、設備作業の場合があり、どちらか適切な方を採用するのが良いでしょう。

展開ステップ



生産性管理指標例



生産性指標推移表

